

# 紙リサイクル出前授業実施報告

当センターの静岡地区委員会が2020年6月26日に富士宮市立山宮小学校にて実施した紙リサイクル出前授業の様子が地元紙（富士山新報、岳南朝日新聞）に掲載されました。

富士山新報 2020年(令和2年)6月30日発行



紙リサイクルについて学ぶ山宮小4年生

## 山宮小で古紙リサイクルについて学習

「目指せ!!雑がみ分別博士」

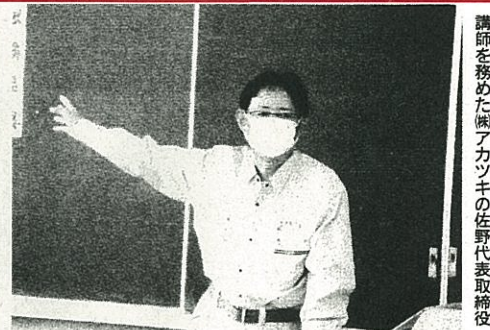
（株）アカツキの佐野代表取締役が出前講座



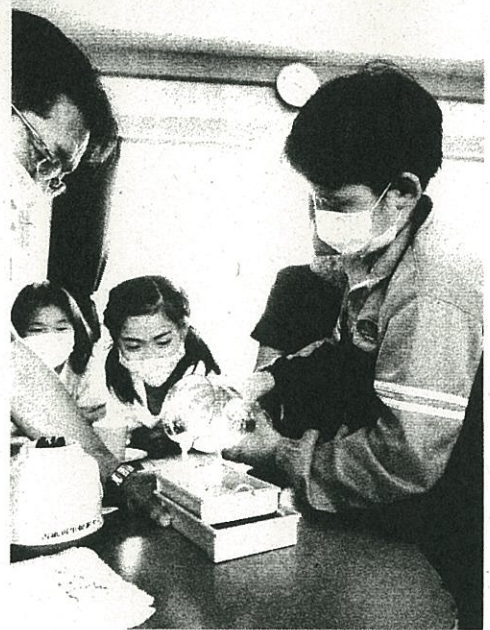
富士宮市は26日、富士宮市立山宮小学校（犬浦教雄校長）で「紙リサイクル出前講座」1目指せ!!雑がみ分別博士」を開き、4年生22名が（株）アカツキの佐野代表取締役から、紙のリサイクルについて講話や実験を通じて学びを深めた。

「ごみダイエットプロジェクト」を展開する富士宮市では、年間300トンの可燃ごみ削減を目指し、雑がみ分別を啓発している。今回は、公益財団法人古紙再生促進センターの協力で、「紙リサイクル出前講座」が開催された。

講話の後は、（財）古紙再生促進センターに加入する、（株）西野実業の服部毅人執行役員ら6名が講座に加わり、「手すきはがき（へり）」の実験に移った。紙リサイクルを理解するという実験は、1枚のA



講師を務めた（株）アカツキの佐野代表取締役



紙のリサイクル実験に取り組み

4サイズのコピー用紙から1枚のはがきを製作した。

児童は講師らの手ほどきを受けながら、コピー用紙を小さくちぎって、水と一緒にミキサーにかけて細かくほぐれるまで回した。続いて、すき粉に流し込み、網板を使って水を絞り、さらにタオルに挟み込んで水分を水分を取り除いて、古紙パルプを厚紙で包みつけて乾燥させていく手順で手すきはがきを完成させ、紙のリサイクル法について理解を深めた。

児童らは、佐野代表取締役が出題する、紙リサイクルクイズに元気に楽しみながら答えたり、グループに分かれて相談したり、楽しみながら実験に挑戦しながら、身近な紙のリサイクルについて関心を深めた。



# 手すきはがき作りに挑戦

山宮小の4年生 紙りサイクルの大切さ実感



古紙パルプを容器に流し込む

「紙りサイクル」出前講座「目指せ！雑がみ分別博士」

古紙リサイクルの大切さを児童たちに理解してもらおうと公益財団法人古紙再生促進センターの「紙りサイクル」出前講座「目指せ！雑がみ分別博士」が、26日、山宮小学校で開かれた。4年生児童22人が古紙を活用して「手すきはがき」作り

「雑がみ分別博士」が定を受けた古紙リサイ

26日、山宮小学校で開かれた。4年生児童22人の佐野克弥代表取締役

「手すきはがき」作り

「紙りサイクル」の大切さを実感した。

同センターと富士宮市生活環境課のコラボ事業として市内の小中学校を対象に昨年度からスタート(5校で実施)した出前講座事業で、本年度初の開催。講師は、全国製紙原料商工組合連合会から認



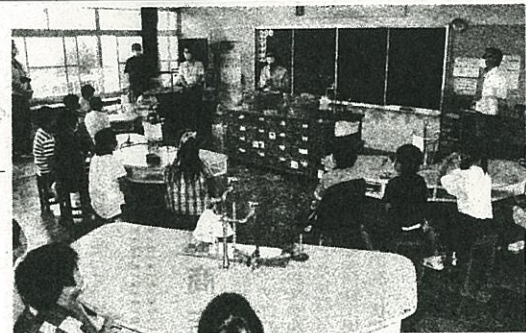
古紙で作ったはがきを乾燥させる児童

と同センター関係者ら7人が補助を務めた。前半の講座では佐野さんがテキストに沿って講話。紙が社会で果たしている役割や、一人当たりが年間に紙をどのくらい消費(1人約200kg)しているのかを学び、紙の原料となる緑の資源を保全するためにも古紙リサイクルが必要なこと、また、古紙を効率よく再生するために、新聞・雑誌・雑がみ・段ボール・紙パックをそれぞれ種類ごとに分別して回収することが求められていることを学んだ。

さらに、分別する際の留意点についてクイズ形式で学び、フィルム付きの封筒や金色・銀色に光る紙、臭いの付いた洗剤箱、感熱紙のレシートなどは紙のリサイクルには適していないことにも理解を深めた。

このあと、同センターが用意してくれた用紙を使って「手すきはがき」作り

「手すきはがき」作り。ちぎった古紙と水をミキサーに入れて、どろろ状になった古紙パルプを網板と網を敷いた容器に流し込み、もう一つの網と網板を使って上から手で押し込み、水を絞る作業など



まとめて紙のリサイクルの大切さをアピールする佐野さん

サイクルの大切さを家ごみの削減に取り組む族にも伝えて分別に取ります。皆さんも古紙組んでほしい」と紙のリサイクルで協力ビル。市生活環境課を」と訴えた。同講座は10月28日にセンターが少しでも長井之頭小でも予定されく使えるように、可燃としている。

励んだ。容器から取り出した再生古紙の「手すきはがき」に児童たちは目を輝かせていた。講座のまとめでは佐野さんが、「古紙のリ